

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和2年2月28日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 15名	(依頼数) 9名
地域アンケート回答数	3名	

※事業所記入

事業所番号	3890500378
事業所名	グループホーム うわばら
(ユニット名)	さくら
記入者(管理者)	
氏名	浅木 修
自己評価作成日	令和2年2月4日

<p>【事業所理念】 和我家・・・和やかに過ごせる私たちの家を目指す</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 外部評価項目一つ一つを職員に理解して頂き、毎日のケアに生かしてもらった。少人数だが、地域で開催される行事に参加したり、法人主催の行事に地域の方を招いたりした。平均年齢90を超えるようになり、ちょっとした時間を利用してドライブに出掛ける事が多くなった。家族が積極的に病院受診や、外出等に関わりを持ってくれるようになった。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 管理者は事業所の理念を折に触れて職員に伝え、利用者に我が家となれるよう細かなアセスメントに努め、個性のある支援を目指している。利用者は事業所の周囲の環境とも相まって穏やかな雰囲気の中で生活することができている。利用者の高齢化、重度化によって、看取り支援への要望も高まっており、積極的に取り組んでいる。また、家族や医療関係者の協力のもと、最期まで慣れ親しんだ場所で過ごすことができる環境を整備している。</p>
--------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	職員は必ず一人ひとりと話し、さりげない言葉から多くをよみとれるように注意している。	○	/	○	さりげない会話の中から利用者の思いや意向を聞き取り、事業所独自のアセスメント様式に記入し、職員間で共有している。家族にも生活の希望や思いを聞き取っている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	本人の目線で物事を考えるように努めている。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	入居時の際の聞き取りや、面会時に来られた家族や知人の方から話を聞かせて頂くよう心掛けしている。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	◎	ケース記録、連絡ノートを活用している。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	入居者主体で物事を考えるように努めている。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	◎	本人からの話や、家族、知人からの話をできるだけ聞くように努めている。	/	/	○	入居時に利用者や家族から、生活歴や大切にしてきたことを聞き取っている。また、これまでに利用してきた事業所からも記録や診療情報を得ている。把握した情報はフェースシートに記入し、職員間で共有している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	◎	色々なことを試して出来る事を見つけている。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	◎	ケース記録、日誌に記載し職員全員が把握できるようにしている。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	便が原因だったり、失禁されているとか様々な原因を皆で見つけ共有できるようにしている。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	◎	パターンの把握ができていると思う。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	◎	気付いた点をユニット会で職員が発表して話し合っている。	/	/	○	ユニット会では、日々の支援の気づきをもとに必要な支援を検討している。家族にも意見を聞き、アセスメントを行っている。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	家族との繋がりが一番であると思う。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	◎	家族の協力のもと、課題を明確にしより良いチームケアに繋げている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	家族の協力なしでは出来ない事なので、協力をお願いしている。	/	/	/	サービス担当者会議に同席できない家族には電話で家族に聞き取りを行い、課題やケアのあり方について話し合い、思いを共有している。ユニット会では利用者や家族の意向を踏まえた上で介護計画を立案している。支援内容は具体的かつ、実現可能な課題となるように配慮している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	ユニット会で行われる個々の処遇内容を重視し、色々な意見を取り入れて作成している。	○	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	安心した表情で毎日が過ごせるように、プラン作成している。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	家族を巻き込んだプランを作成。協力を得て地元地域での社会参加に努力されている。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	充分には把握できていないが、ユニット会で一人一人について話し合い、理解度を深めている。	/	/	○	ユニット会で話し合いながら介護計画を作成しているため、内容の理解・共有ができています。介護計画に沿った実践内容はケース記録に記録し、日々の申し送りで共有している。利用者の暮らしの様子などもケース記録に記入し、職員の気づきや工夫、アイデアなどは連絡ノートに記入し、職員間で共有している。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	不足な面もあるが、記録はしっかり残していく努力をおこなっている。次の支援に向けた取り組みに繋げていきたい。	/	/	○	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	◎	ケース記録に詳細に記録している。	/	/	○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	以前は気づきノートがあったが、連絡ノートに記入するようになった。	/	/	○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	必要に応じて、多くの職員から意見を聞き、見直しを行っている。	/	/	○	介護計画は6か月ごとにモニタリングを行い、見直している。毎月のユニット会や申し送りなどで利用者の現状確認を行っている。入退院など、利用者の状態に変化が生じた場合には、医療関係者を含めて利用者や家族と話し合い、随時計画を見直し新たに計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	日頃より担当職員から情報を得るように努力している。	/	/	○	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	◎	入院後には大きな変化が生じる為、計画作成している。	/	/	○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	月に1度各ユニット会を開催。緊急時の職員召集は難しく、担当者やリーダーが話し合いを行う。	/	/	○	毎月のユニット会を課題解決の場とし、緊急案件がある際は担当職員やリーダーで話し合いを行っている。会議に参加できなかった職員は申し送りや議事録で話し合いの内容を確認している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	◎	ユニット会において活発な意見交換ができています。会議の進め方として、全員の意見を聞くようにしている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	◎	月に1度各ユニット会を開催。(毎月10日と11日と固定開催)	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	◎	議事録を渡したり、口頭で内容を伝える事になっている。	/	/	○	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	◎	些細な事でも連絡ノートに記入する事になっている。	/	/	○	家族とのやりとりを含め、小さなことでも申し送りノートに記入することになっている。職員は出勤時に申し送りノートを確認し、サインしている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	ケース記録、日誌に必ず記載。	○	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	一人一人の希望を把握し、実現に向けた努力を行っている。	/	/	/	飲み物の種類や更衣時の衣服など、生活の場面ごとに選択してもらえるように確認している。利用者の生活歴や日常会話の中で把握した情報をもとに、利用者の好みや得意なことを話題にしながら利用者の言動を引き出すように努めている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	何が食べたいのか、何が飲みたいのか、おやつや食事の際に問いかけている。	/	/	/	
		c	利用者が思いや希望を表現するように働きかけたり、わかるかに合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	意志が無い方でも気持ちを読み取り、支援の努力を行っている。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	ゆったりしてもらおう努力をしている。職員のペースで行わないように注意している。	/	/	/	
		e	利用者の活き活きした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	◎	場が和むような声掛けや態度が取れるように指導をおこなっている。	/	/	/	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	意思疎通困難な方でも、わずかな表情や仕草でその方の気持ちを読み取るよう努めている。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	まずは認知症について理解し、一人一人を大切に思うことが出来るように日頃より職員教育に努めている。	/	◎	○	職員は入職時に接遇研修を受け、人権や尊厳について学んでいる。事業所としても、常に意識して取り組み、ユニット会で注意しているが、言葉がけに配慮が欠けていると感じられる面もあるため、利用者への敬意ある対応ができるように取組んで欲しい。居室の出入りについて、どの利用者にとってもプライベートな専有の場所であることを再認識し、丁寧な対応が徹底できるようにして欲しい。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	○	出来ていない職員もいる。指導はしているが、職員教育の難しさを感じる。	/	/	/	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	◎	他の方に悟られないようなトイレ誘導を行う。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専有の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	◎	特にしっかりとされている方の居室の出入り時には、了解を得てから入るように指導している。	/	/	/	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	理解している。再度勉強会を行いたい。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	人生の先輩として、色々なことを学ぶ機会が多い。	/	/	/	職員と一緒に他の利用者のお世話をしてくれる利用者もいる。時には利用者同士で言い合いになる場面もあるが、配席の変更や職員が間に入るなどして解決している。会話が少ない利用者がいれば、職員が隣で一緒に過ごしたり、雰囲気に馴染めるように配慮して支援している。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	間に入ることなく良い関係が維持できるように見守る。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらおう場面をつくる等)。	◎	トラブルや合う合わない事が多くある。席替えを行ったり、トラブル時は職員が間に入ったりして解決している。	/	/	/	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	◎	職員が間に入ったり、場所の移動や席替え等をおこなう。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	良く来られる方については把握できている。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	家族や知人からの情報を頼りに、情報収集に努め、理解を深めている。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	◎	いつも家族対応で行かれる方も居られる。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	居室で過ごされたり、職員は見守る程度の距離をおいている。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	充分にはできていない。天気の良い時など、歩行安定されている方はよく施設周辺散歩に行かれる。季節的に春、秋には多く外出されている。	△	×	△	職員の配置により、安全確保がとれる場合に事業所周辺を散歩することはあるが、利用者のその日の気分や希望で戸外に出かけることは少ない。重度の利用者も外出事に参加することもあるが、日常的な機会は少ない。利用者の体調や気候など配慮しながら、外出支援について改めて検討する機会を設け、日向ぼっこなどの小さな取組みからでも、すべての利用者が戸外で気持ち良く過ごせるような取組みを工夫して欲しい。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	○	ボランティアの方の協力のもと、外出され、外食行事に参加されている。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	車使用の外出行事には参加される。	/	/	/	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	家族協力のもと、よく行かれている方もおられる。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	◎	ユニット会において勉強会を行っている。	/	/	/	利用者のできることやできそうなことをアセスメントで把握している。新聞紙でごみ箱を折る作業では、職員が声をかけながら一緒に作業する様子が確認できた。利用者のできることやできそうなことは、自分でやってもらいながら、職員は見守ったり一緒に行うようにしている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	食事前の体操等で身体機能の低下予防を行っている。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	さりげなく洗濯物などを置いて、畳んでいただいたりしている。	○	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	意思決定の困難な方は職員が提供し、楽しみ事を一緒に持てるよう努力している。	/	/	/	事業所での生活が長くなり、できなくなることが増えても、利用者はその時々楽しみを見つけて生活の中で行うようにしている。おしぼりたたみやテーブル拭きを出番としている利用者もいる。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	認知症を十分理解し、職員の意識の向上を目指し、共に歩める環境作りを目指していきたい。	○	○	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	○	家族の協力のもと、地域の行事に参加されている方がおられる。	/	/	/	

愛媛県グループホームうわばら

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	◎	さりげなく言葉を掛けてあげる。衣服や髪形など褒めてあげることで、いい会話が始まる。				食べこぼしや衣服の汚れに気づいた職員は、利用者の気づかないうちに素早く拭き取ったり、化粧の習慣がある利用者には朝の身支度の時間に声かけを行っている。重度の利用者も起床後に更衣し、身だしなみを整えている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	さり気ない声掛けをしながら毎朝の整容を行っている。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	家族や知人の話や職員達の話で一番良い方法を提案していく。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	病院受診の時など、特にご本人から気を使われる。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	◎	気付いてあげ、さりげなく本人に恥をかかせないように対応している。	◎	◎	◎	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	◎	個人的になじみの美容院に行かれていた方もおられる。個々にあった髪形にしてみよう、美容師さんにアドバイスをしている。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	常に気が付いてあげる気持ちを持てるように心掛けている。			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	◎	愛情込めた食事作りをしている。				献立は法人の栄養士が立案し、旬の食材や材料を2日に一度配達してもらい、新鮮な食材で調理している。下膳やテーブル拭きなどのできることを利用者と一緒にやっている。利用者の好きな食べ物や苦手なものは事前にアセスメントして代用食で対応することができ、季節ごとのお祝い行事に合わせた料理も楽しんでいる。食器は入所時に持参してもらい、思い入れのある使いやすいものや持ちやすい形の食器を使うなどの工夫をしている。職員は、利用者のサポートを行いながら、同じ食卓で食事を摂っている。居室内で過ごす時間の長い重度の利用者も、食事時にはドアを開放し調理の香りやリビングの雰囲気を楽しんでもらうことで、食欲増進につなげている。利用者の嚥下状態を確認し、食べやすい形状や調理方法について職員間で話し合っている。食事介助の方法についても、利用者が安全に食べられるようにドレッシング容器の使用などの工夫を行っている。法人の栄養士に食事が進みになった利用者の栄養相談に乗ってもらい、アドバイスを受けている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	個々の自立度に合わせた対応を行っている。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	自発的に台所に来られ、コップ等を洗って下さる。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	充分に把握している。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔ながらの味を取り入れている。	◎	日頃から食べたいもの等をお聞きしている。			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いりどりや器の工夫等)	◎	その時の状態に合わせて対応している。経験の積んだ職員の知恵やアドバイスを後輩職員に伝えている。(終末期に近くなった方にはミキサー食や刻み食も必要)				
		g	茶碗や湯飲み、箸等使いやすいものを使用している。	◎	本人専用のお茶碗、お箸、瀬戸物の食器を使用している。			◎	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなくやっている。	◎	職員も昼食は必ず同じ物をテーブルで頂く。			○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	手作りの愛情こもった食事を作っている。	◎		◎	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	糖尿病の方は制限がある。				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	食時量が減ってきている場合は家族に連絡し、嗜好品を持って来ていただいたり、食べれるものを見つけていく努力をする。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	栄養士からのアドバイスで高カロリードリンクなど飲んで頂く事もある。			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	夕食終了後に調理用具等を殺菌消毒行う。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	理解できている。				食後に利用者全員の口腔ケアを行い、職員は口腔内の確認をしている。歯磨きや食事の様子を観察し、普段と変化があれば家族に連絡したり、歯科受診につなげた利用者の体重減少の原因が口腔内にあることを突き止めたりしたケースもある。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	把握している。歯の不具合を訴える方は多く、訪問歯科を利用。口腔ケアに関しては、しっかりされている方が職員の介助を嫌がり難しい面がみられる。			○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	研修を受けた職員はいるが十分なケアはできていない。義歯が合わなくなったり、残っている歯根が駄目になったりとトラブルが多い。訪問歯科を利用している。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	義歯は夜間お預かりし、洗浄。拒否される方は30分程お預かりし、お返りする。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	自分の歯がある方は口臭を生じやすく、液体歯磨き等使用されている。			○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	○	家族対応で歯科に行かれている。訪問歯科を利用している。				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	◎	反対に希望される方もおられる。(漏れが心配と)膀胱がんの方はトイレに行かなくても漏れている状態。反対にパットは必要不可欠である。個々に合った対応が必要。				重度化により、おむつを利用することが多くなっても、日中はなるべくトイレで自然排泄ができるように支援している。ユニット会では利用者の状態に合った排泄用品の使用について話し合い、適切な利用を心がけている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	◎	十分に理解している。ユニット会でも勉強を行っている。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	生活記録表に記録している。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	夜間のみ紙おむつ対応の方がおられる。	◎		○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	◎	食事や飲み物を工夫し、試行錯誤している。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	◎	自立の方もさりげなく声掛けを行う。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一時的に選択するのはなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	本人の希望、職員の意見、家族の希望を踏まえて試行錯誤しながら、本人にとって一番適切なものを使用している。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	◎	入居してから日々検討している。個々の状態に一番適切である選択をおこなっている。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	食事から排便を促していく努力はしている。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	◎	入浴を嫌がる時は日にちを変えて入浴して頂く。また対応する職員を変えて(相性のいい)対応。声掛けの仕方にも工夫している。	◎		○	入浴は週2回利用でき、利用者の入りたい日や時間、湯温などの希望や好みになるべく浴えるように努めている。入りたくない日は無理をせず日を替え、同性介助の希望があれば職員を交代するなど、柔軟に対応している。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	◎	本人のペースに合わせて入浴される。反対にすぐ出ようとされている方もおられるので、ゆっくりとできるような会話をし、対応にも工夫している。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	◎	出来る事はして頂き、本人のレベルを下げない努力をしている。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせずに気持ち良く入浴できるよう工夫している。	◎	日にちを変更したり、担当者を変えたりして対応している。無理強いはいしない。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	体調や精神的に不安定な時は日を改めて入浴して頂く。決して無理強いはいしない。				

愛媛県グループホームうわばら

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	申し送りを行ったり、ケース記録に記入するなどして、情報を共有している。	/	/	/	現在、睡眠導入剤などの処方を受けている利用者はいない。夜間帯のトイレ回数が多く利用者がいるが、日中の過ごし方を検討したり、医師にも相談しながら総合的な支援に努めている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	◎	昼夜逆転される方が多い。日中の覚醒を促す努力をしている。(コーヒーや緑茶、紅茶などの飲み物を提供)	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	◎	他の方に悪い影響を及ぼす方がおられる場合、医師や看護師の助言をいただき、また家族の意見、同意を得たうえで病院受診して頂く。	/	/	◎	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	短時間で横になられるように声かけている。自室に戻られ休まれる方も居られる反面、人が居られるホールで休まれる方も居られる。(安心されるのか)	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	◎	携帯を持たれている方がおられる。何度が警察に電話したようで苦情があった。(掛けれる相手特定し設定した。)	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	◎	遠方から暮らしておられる家族より毎月絵手紙が届く方がおられる。携帯で家族との連絡をされている方もおられる。事務所まで、電話を掛けたいと言いに来られる方も居られ、家族と話をされる。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	◎	要望があれば事務所で電話されることもある。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	◎	家族に電話連絡を行い、近況を伝える。電話可能な方は家族と話していただく。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらおうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	毎月絵手紙を送ってくださる家族がおられる。家族からの電話は取り次いで話をされている。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	◎	手元に現金があると安心される。お金が手元にあっても、「通帳がない。」と心配される方もおられる。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	○	買い物等は家族が対応される。中には一緒に行かれる方もおられる。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	△	残念なことに周辺地域に気軽に行かれる店がない。家族と外出時に買い物されている方もおられる。。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	財布ごとゴミ箱に入れられたり、タンスの中にゴミと一緒に入れられたり、管理が難しく、基本的に事務所のほうでお預かりする形になっている。家族と相談し、紛失してもいい金額を本人に渡している。(時々確認している。)	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	◎	家族さんもわからず、本人任せと言われる事が多い。職員も交えて話し合い、どうしていくか、本人の気持ちを考慮し考えていく。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	だんだん管理できなくなり、お財布ごと事務所でお預かりしている方が多い。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われな、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	◎	家族との連携、協力のもと、職員と共に多様なニーズに答えていく。	/	◎	◎	管理者は利用者や家族のその時々々のニーズに、柔軟に対応したいと考えている。利用者の意向を家族に伝え、協力を得て墓参りや遠方の旅行へ行くこともある。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
(3)生活環境づくり										
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	◎	駐車場も広く、気兼ねなく駐車できる。家族が持って来られた草花を飾り、温かみのある雰囲気作りを目指したい。	◎	◎	○	家族がプランターに植えた花を持ってきてくれ玄関周りに飾ったり、ベンチを置いて利用者や地域の方が休憩できる場所となっている。	
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	◎	家庭的な空気が流れるように、殺風景な部屋ではなく、暖かみがある空間を目指している。	◎	○	◎	事業所の廊下は季節の行事の手作り作品を飾り、目で見て楽しむことができたり、加湿器を置くなど乾燥を防いだりするなど、利用者の過ごしやすい空間をつくっている。リビングは吹き抜けで明るく開放的である。掃除が行き届き、不快なおいを感じることもない。両ユニットとも段飾りの雛人形を飾り、利用者が季節の行事を思い出し、会話するきっかけづくりができる環境が整えられている。	
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	毎日掃除を行い、換気にも十分注意している。冬場は特に乾燥が酷い為、加湿にも気を付けている。					◎
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	季節の花を、入居者に活かしていただいたり、テーブルの上に置いたり、ささやかな工夫がある。					○
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	仲のいい者同士(問題が起こらない。)が同じテーブルについている。色々トラブルが起これば、職員間で話し合い、一番よい組み合わせを考えていく。近くにソファを置き、工夫している。					
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	△	中央トイレが構造上ホールから見えてしまう位置にある。使用中はドアを開められているか確認している。					
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	◎	入居の際は本人が今まで大切にされてきた家具や、雑貨等持ってきていただき配置等は本人や家族にお任せしている。	◎		◎	利用者が長年愛用してきた家具を居室でも使用している。絵画や祭りのポスターを飾ったり、本棚に本を並べたりするなど、その人らしく利用者の好みを活かした居室となっている。	
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	トイレの位置や洗面所の位置がわかりやすい。しかし理解できない方も居られる。場所がなかなか覚えられない。張り紙や声掛けを行っている。			○	トイレや居室の場所は目で見てわかるように表示されており、安全で自由に行き来ができるように工夫している。	
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	◎	トイレの電気が自動的に消える事を認識されず、戸惑っている方が多い。貼り紙で対応しているが、理解されない。水道の自動も戸惑っている。昔の蛇口がよい。					
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ぼうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	新聞、雑誌は常時ホールに置かれている。洗濯物も室内干しされており、いつの間にか丁寧に畳んでくださっている。					
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	山間部に位置し、今まで何度も施設外徘徊者があり、警察の方からも施錠するように注意されている。見守りセンサー等を設置し、開錠につとめている。事務所に職員がいるときは開錠している。	◎	◎	×	職員は鍵をかけることの弊害を学んではいるが、帰宅願望の強い利用者が多く外へ出てしまうことが続いたため、警察の嚴重注意を受けて以来、現在は来訪者がある時に開錠する対応を行っている。職員は鍵をかけずに自由に過ごしてもらいたい思いがあり、見守り方法や職員体制などの検討を期待したい。	
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	しっかりされている方は反対に必ず居室に鍵を掛けられる。夕方になると明けていた窓や出入口を施錠されたり、また明るいのにカーテンを閉められる。昔ながらの慣習が抜けない方が居られる。					
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	センサーチャイムを設置している。玄関は施錠していない。地域性(山間部)があり、危険性がある為、自由な外出には制限がある。					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	◎	事前面接記録等で一人ひとりを把握する。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	毎日の様子をケース記録に記入している。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等いつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	月に2度の往診があり、気になることや不安があれば医師や看護師に相談している。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	協力病院に相談の上、紹介状を書いて頂き、他の専門病院を受診される。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	月に2度の往診がある。(岩崎病院) 適切な医療を受ける為看護師が間に入り、専門医への受診を促して下さる。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	重篤な場合等、家族同伴で受診をお願いし、医師と直接話をして頂き 誤解が生じないよう、また適切な治療ができるように努める。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	入院の際には必要な情報提供を行っている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	病院から問い合わせがあった時は、ホームでの生活が可能であるか、また家族の意向を踏まえた上で情報交換を行い、早期退院に向けて受入れ体制を整えている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	◎	協力病院とは信頼関係ができています。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	協力病院の医師とかかりつけ医が来られ、入居者の健康状態を見られている。体調の変化や気になる点を往診時に伝え指示をいただいている。また薬の事等でアドバイスを頂く事も多くある。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	緊急時には、看護師に連絡できる体制であり、相談やアドバイスを受ける事ができる。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	日頃から些細な変化に気が付き、職員同士が周知できるように努めている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	充分には理解できていないが、お薬のしおりなど、個々にファイルしており、変更等あった場合は注意して職員が認知できるように努めている。不明なことがあれば薬局に直接連絡し、相談を行っている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	3度名前、服薬時の確認を行い、誤薬防止を徹底している。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	薬が変更になった場合は、職員全員に周知してもらい、気を付けてもらう。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	変化が見られた場合は必ず報告している。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	入居時に家族の意向を確認している。重篤な状態になられた時、再度家族の気持ちや本人の気持ちを読み取り、最適な方向性が選択されるように話し合いを重ねていく。	/	/	/	主治医の判断に伴い、家族を含めて話し合いを持つことで看取り支援の方針を共有し、介護計画を見直している。法人内で協力体制が敷かれており、ユニット会では看取りや重度化に関する話し合いを行っている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者と話し合い、方針を共有している。	◎	本人と家族、医師との間で決定し、その後看護師や介護職員が方針を共有していく。家族の気持ち、主であるべき本人の気持ちを重要視して決定していきたい。	○		◎	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	◎	一人ひとりの気付きを大切に、職員が一つの気持ちとなって最期の時を穏やかに迎えられるように最善を尽くしていただく。多くの方を看取り、職員にはその気持ち、力量が十分に備わっている。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	出来ない事ははっきりと伝え、理解をしてもらっている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	体制は整えている。家族と医師との決定に従う。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	家族だけではなく、職員の中にも心理的不安が生じている事を理解してほしい。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	◎	ユニット会や内部研修で勉強会を行っている。流行前に情報を流し、施設全体で対応策をとっている。	/	/	/	/
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	◎	季節前に勉強会を行い、再確認している。すぐに対応できるように、収納ボックスを用意している。法人全体での取り決めがある。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	◎	残念なことにインフルエンザが職員からの感染で職員や、入居者に蔓延してしまった。充分に対応策をとっていたが、防ぐことができなかった。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	◎	ネット等から情報を集めている。法人全体で、面会禁止や各施設間の行き来を禁止するなど、感染拡大しないよう対応策がある。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	特に病院受診後は付けていたマスクを捨て、新しいものに交換。全身にスプレーで消毒、手洗いを実行する。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	◎	連絡を密にとり、些細な事でもいい話を伝えるようにしている。面会時には、職員が多くコミュニケーションをとるように努力している。	/	/	/	法人の夏祭りの参加を家族総出で楽しんだり、面会時に利用者とは一緒に散歩をしたりする、事業所活動に積極的に参加・協力してくれる家族が多い。毎月の状況報告や電話連絡、機関誌の中で定期的に報告し、生活状況が伝わりやすいように工夫している。また、運営推進会議の報告書を送付し、事業所の活動報告や利用者の状況を伝えているが、運営に関わる報告は行えておらず、制度変更時の書類説明などに限られている。職員の異動を含め、運営上の事柄も丁寧に説明するなど、理解が得られるよう工夫して欲しい。管理者は家族と何でも話し合える良好な関係を構築したいと望んでおり、職員から来訪時の声かけや連絡を積極的に行うように努めている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	◎	宿泊される方は居られないが、一緒にお茶を飲まれたり、周辺を散歩される方が居られる。	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	面会時に一緒に散歩に出かけられたり、夏祭りに一家総出で参加して下さる。	/	○	○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	変化や気づきがあった場合、多く報告するようつとめている。	/	◎	○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	家族が嫌がるような事や、辛がる事柄については、あまり報告しない。なるべくいい報告、楽しい報告ができるようにしている。	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	◎	家族から色々な話題を引き出し、いい関係が築けるように努力する。	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得ようとしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	運営推進会議において報告している。地域や市の関係者も来られるので、色々な情報提供していただいている。	/	x	x	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	○	法人主催の盆踊り大会があり、家族や、職員の交流の場となっている。	/	/	/	
		i	利用者一人ひとり起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	◎	面会時に日頃の様子を伝え、リスクの高い方には詳細に危険度について話を伝えている。ホーム側が行っている対応も説明し、理解していただいている。	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	◎	小さな事でも家族に伝え、気さくに話し合える関係を作っていきたい。	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	しっかりと説明を行い、必要事項記入、押印等をお願いしている。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	今迄、3件の退居事例があったが、すでに退居先が決定済であった。	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	必要書類を説明し、署名、押印を頂き、本人の個人ファイルに保管している。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	運営推進会議を開催している。地域の方とのパイプ役になっている。	/	◎	/	自治会の門松作りなどの行事や、法人の菜園で園児と芋掘りをする交流がある。地域行事への参加を期待する声も聞かれているが、高齢化や職員体制などの理由から、利用者が地域へ外向く交流の機会はない。今後、利用者が地域住民と交流する機会を持てるように支援して欲しい。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	運営推進会議に来られる地域の方がいろいろな情報を提供してくださる。あじさい祭り、広瀬公園の花見など近隣にすばらしいものがあるので他にはない地域のすばらしい財産を満悦している。	/	×	△	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	△	地域性(山間部、高齢者が多い、人口が少ない)もあり、難しい点がある。反対に職員が地域の方を心配している。	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	同地区の方が、入居されている方の家を心配されて来られる(家の草ぬきもしてくださる。)	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	地域性もあり、難しい所がある。散歩されている方が多く、気軽に声をかけている。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	毎年年末に門松を立ててくださる。節分時には鬼頭を持ってきてくださり、ホームの事を機に欠けて下さる。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	広瀬公園という立派な公園があり、住友の資料館がある。暖かい時は歩行のしっかりされる方と散歩に出掛ける。住友に係る方が多いので、天気をみてマイントピアにドライブに行かれ楽しまれている。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	入所当時から職員対応で馴染みの美容院にお連れしている方が居られた。家族対応で、なじみの美容院に行かれていたかとも居られる。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	◎	高齢の方が多く、最後の雑談が長くなり、楽しみにされている。隣接の施設職員の参加もあり、会合を楽しまれている。	/	×	△	地域住民の参加は多いが、家族の参加は家族代表者のみとなっている。開催の呼びかけは全家族に行い、参加できなかった家族にも会議の内容が伝わるように工夫して欲しい。会議では利用者の暮らしぶりや評価結果を報告しているが、取り組み状況については報告されていないため、今後は目標達成計画を作成し、改善に向け理解が得られるよう取り組んで欲しい。地域住民や市担当者など、参加者からは地域情報などの意見を多く得ており、外出先などを運営に反映し報告している。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	実施後と公開後に、推進会議において評価の概要は報告している。	/	/	△	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	◎	市役所の方も出席され、色々な情報を提供してくださる。	/	/	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	◎	奇数月の第三金曜日と決めている。	/	/	○	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	◎	菜園者が閲覧できるようにしている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	◎	毎年、4月に理念について勉強している。ユニットごとに理念がある。	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	◎	事務所内、また利用者様にもわかるように玄関ホールに掲示している。	○	△	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者:基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	市内、近隣地域での研修があれば、参加をうながしている。遠方(松山等)は行きづらいという職員の声がある。	/	/	/	代表者は日頃から職員とコミュニケーションを図り、気軽に相談に乗る関係を構築している。職員の親睦会の助成制度など、ストレスを軽減しながら働けるよう環境を整えている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	資格習得に向けて、法人の援助や勤務も猶予されている。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	◎	必要な時は遠慮なく、有給休暇が取得できるようにしている。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	△	以前は何らかの交流の場が見られたが、現在は無くなった。他の施設を見学したり情報交換できる場があればいいと思う。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	外部福利厚生サービスを利用され、催し物に参加されたり、旅行に行かれたりされている。職員と常日頃より、話をさくようにしている。	○	◎	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	◎	ユニット会において勉強会を行っている。実際に起こった事例や職員の精神状態を分析。ホームで絶対に起こらないよう職員一人ひとりに周知して頂く。	/	/	/	ユニット会で職員は虐待や不適切ケアについて学んでいる。利用者への言葉遣いなど対応に気になる点があれば、職員自身に気づきが持てるように注意している。万が一、虐待や不適切な行為が発見された場合には職員は報告書を提出し、再発防止について職員間で話し合う手順となっている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	◎	月に1度ユニット会が開催、処遇について一人ひとり分析し、どう対応するか話合う。	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないよう注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	◎	職員間で問題の分析を行い、再発防止に取り組む。また関係者には口頭で早期に報告し、後日必要報告書等の提出を行う。	/	/	/	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	◎	言葉遣い、態度に変化がないか観察する。日頃から職員一人ひとりに声掛けするように心がけている。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	◎	ユニット会において毎年繰り返し勉強会を行っている。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	◎	把握しているが、毎年繰り返し勉強会を行っている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設長の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	◎	十分な説明を行い、理解して頂く。	/	/	/	

愛媛県グループホームうわばら

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	×	支援が必要な方がいない為、十分に理解されていない。今後の学習課題とする。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	×	行えるようにしてはいるが事例がない。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	×	現在必要性がない為、連携体制は築けていない。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	◎	緊急時のマニュアルは作成し、吸引用具は準備されている。勉強会もおこなっている。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	不定期であるが行っている。職員全員が対応できるかは、不安がある。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎	ちょっとした事でも提出することになっている。重大事故は市に報告書を提出する。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	事故が起こった場合にカンファレンスをおこなって、再発防止に向けた話し合いを行っている。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	◎	苦情が出たときは上層部まで報告書を提出している。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	◎	苦情報告が出れば、速やかに報告書を法人に提出することになっている。市町村迄提出した事例はまだない。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	◎	最終的な報告を伝えている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	一番は家族からの報告だと思うが、今まで無い。			○	家族からの要望は面会時など日常的に聞き取りを行い、利用者のケアに反映し信頼される関係づくりに努めている。利用者の意見や要望は日々の関わりの中で聞き取っている。聞き取った要望はユニット会で話し合い、全員で共有している。職員は管理者に直接相談することも多く、何でも話し合える雰囲気になっている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	玄関に苦情BOXを設置している。日ごろから家族とより良い関係を築き、気さくに何でも話し合えるよう努力している。		○	○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	入所説明・契約時には説明をおこなっている。何かあれば、直接ホームに相談がきている。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	◎	職員あつての職場であり、一人ひとりの意見や思いを日頃から聞くように努力している。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	ユニット会において、入居者の担当職員から意見や提案を聞き、より良い支援に繋げるため話し合いを行っている。入居者を大切に思う気持ちを一番に共有して貰いたい。			○	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	項目の確認はするが、自己評価までには至っていない。				評価結果の報告は行っているが、目標達成計画を作成していないため、今後は運営推進会議などの機会を活用し、課題を共有して欲しい。また、機会を得ながら活用しながら、取組状況の報告や参加者のアドバイス、意見をもらうなど、モニターとしての機能を活かし地域に開かれた事業所となることを期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	色々な勉強不足に気づかされる。多くの項目において1年間の課題ができた。				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	全てには取り組めていない。項目が多く、抜粋して取り組んでいきたい。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	△	報告はしているが、モニターは利用していない。	×	×	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	ユニット会や運営推進会議において報告している。職員には事前に評価項目の内容を確認してもらっている。現状維持では無く、ケアの向上に努力していく。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	◎	マニュアルは整備されている。必要に応じて見直しもこなしている。				事業所内の防災訓練は実施できているが、家族や地域住民との連携がなく、不安な様子を感じられる。運営推進会議などの機会を活用し、話し合いや合同訓練を実施していくことで協力・支援体制を確保し、利用者や家族だけでなく、地域住民や職員にとっても安心できる場所として認識してもらえるように取り組んで欲しい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	夜間想定した火災訓練を行っている。土砂災害も近隣施設の協力を得ておこなっている。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	行っている。隣接施設の管理栄養士が非常食の管理業務をしてくださっている。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	消防署からの指導や訓練の機会はある。	×	×	×	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	法人として地域の防災会に参加しており、不定期に開催される防災会議・防災訓練には参加している。				
		a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	○	法人として、地域の認知症高齢者支援団体(すみのSOSネットワーク協議会)の事務局を担当し、定例会や訓練に参加している。				
51	地域のケア拠点としての機能	b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	申込書等持ってこられた時に相談等行っている。		×	△	家族や入居希望者への相談支援の機会はあるが、認知症ケアを実践している事業所としての認知度は低いと感じられる。今後は自治会などの協力も得ながら、地域の高齢者や認知症の人、その家族へ相談支援が行える場として周知し、事業所として積極的に相談を行える体制を整備して欲しい。地域交流は法人が窓口になっていることから、事業所が独自に関わりを持つことが少ないため、今後は積極的に地域活動を協働しながら行って欲しい。
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	十分に活用出来ていない。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	一度受け入れた事がある。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	法人で参加。地域と連携できるように協力体制の構築に努めている。			△	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和2年2月28日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 15名	(依頼数) 9名
地域アンケート回答数	3名	

※事業所記入

事業所番号	3890500378
事業所名	グループホーム うわばら
(ユニット名)	うめ
記入者(管理者)	
氏名	浅木 修
自己評価作成日	令和2年2月4日

<p>【事業所理念】 和我家・・・和やかに過ごせる私たちの家を目指す</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 外部評価項目一つ一つを職員に理解して頂き、毎日のケアに生かしてもらった。少人数だが、地域で開催される行事に参加したり、法人主催の行事に地域の方を招いたりした。平均年齢90を超えるようになり、ちょっとした時間を利用してドライブに出掛ける事が多くなった。家族が積極的に病院受診や、外出等に関わりを持ってくれるようになった。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 管理者は事業所の理念を折に触れて職員に伝え、利用者に我が家となれるよう細かなアセスメントに努め、個性のある支援を目指している。利用者は事業所の周囲の環境とも相まって穏やかな雰囲気の中で生活することができている。利用者の高齢化、重度化によって、看取り支援への要望も高まっており、積極的に取り組んでいる。また、家族や医療関係者の協力のもと、最期まで慣れ親しんだ場所で過ごすことができる環境を整備している。</p>
--------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	職員は必ず一人ひとりと話し、さりげない言葉から多くをよみとれるように注意している。	○	/	○	さりげない会話の中から利用者の思いや意向を聞き取り、事業所独自のアセスメント様式に記入し、職員間で共有している。家族にも生活の希望や思いを聞き取っている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	本人の目線で物事を考えるように努めている。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	入居時の際の聞き取りや、面会時に来られた家族や知人の方から話を聞かせて頂くよう心掛けしている。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	◎	ケース記録、連絡ノートを活用している。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	入居者主体で物事を考えるように努めている。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	◎	本人からの話や、家族、知人からの話をできるだけ聞くように努めている。	/	/	○	入居時に利用者や家族から、生活歴や大切にしてきたことを聞き取っている。また、これまでに利用してきた事業所からも記録や診療情報を得ている。把握した情報はフェースシートに記入し、職員間で共有している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	◎	色々なことを試して出来る事を見つけている。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	◎	ケース記録、日誌に記載し職員全員が把握できるようにしている。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	便が原因だったり、失禁されているとか様々な原因を皆で見つけ共有できるようにしている。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	◎	パターンの把握ができていると思う。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	◎	気付いた点をユニット会で職員が発表して話し合っている。	/	/	○	ユニット会では、日々の支援の気付きをもとに必要な支援を検討している。家族にも意見を聞き、アセスメントを行っている。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	家族との繋がりが一番であると思う。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	◎	家族の協力のもと、課題を明確にしより良いチームケアに繋げている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	家族の協力なしでは出来ない事なので、協力をお願いしている。	/	/	/	サービス担当者会議に同席できない家族には電話で家族に聞き取りを行い、課題やケアのあり方について話し合い、思いを共有している。ユニット会では利用者や家族の意向を踏まえた上で介護計画を立案している。支援内容は具体的かつ、実現可能な課題となるように配慮している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	ユニット会で行われる個々の処遇内容を重視し、色々な意見を取り入れて作成している。	○	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	安心した表情で毎日が過ごせるように、プラン作成している。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	家族を巻き込んだプランを作成。協力を得て地元地域での社会参加に努力されている。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	充分には把握できていないが、ユニット会で一人一人について話し合い、理解度を深めている。	/	/	○	ユニット会で話し合いながら介護計画を作成しているため、内容の理解・共有ができています。介護計画に沿った実践内容はケース記録に記録し、日々の申し送りで共有している。利用者の暮らしの様子などもケース記録に記入し、職員の気づきや工夫、アイデアなどは連絡ノートに記入し、職員間で共有している。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	不足な面もあるが、記録はしっかり残していく努力をおこなっている。次の支援に向けた取り組みに繋げていきたい。	/	/	○	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	◎	ケース記録に詳細に記録している。	/	/	○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	以前は気づきノートがあったが、連絡ノートに記入するようになった。	/	/	○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	必要に応じて、多くの職員から意見を聞き、見直しを行っている。	/	/	○	介護計画は6か月ごとにモニタリングを行い、見直している。毎月のユニット会や申し送りなどで利用者の現状確認を行っている。入退院など、利用者の状態に変化が生じた場合には、医療関係者を含めて利用者や家族と話し合い、随時計画を見直し新たに計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	日頃より担当職員から情報を得るように努力している。	/	/	○	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	◎	入院後には大きな変化が生じる為、計画作成している。	/	/	○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	月に1度各ユニット会を開催。緊急時の職員召集は難しく、担当者やリーダーが話し合いを行う。	/	/	○	毎月のユニット会を課題解決の場とし、緊急案件がある際は担当職員やリーダーで話し合いを行っている。会議に参加できなかった職員は申し送りや議事録で話し合いの内容を確認している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	◎	ユニット会において活発な意見交換ができています。会議の進め方として、全員の意見を聞くようにしている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	◎	月に1度各ユニット会を開催。(毎月10日と11日と固定開催)	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	◎	議事録を渡したり、口頭で内容を伝える事になっている。	/	/	○	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	◎	些細な事でも連絡ノートに記入する事になっている。	/	/	○	家族とのやりとりを含め、小さなことでも申し送りノートに記入することになっている。職員は出勤時に申し送りノートを確認し、サインしている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	ケース記録、日誌に必ず記載。	○	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	一人一人の希望を把握し、実現に向けた努力を行っている。	/	/	/	飲み物の種類や更衣時の衣服など、生活の場面ごとに選択してもらえるように確認している。利用者の生活歴や日常会話の中で把握した情報をもとに、利用者の好みや得意なことを話題にしながら利用者の言動を引き出すように努めている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	何が食べたいのか、何が飲みたいのか、おやつや食事の際に問いかけています。	/	/	/	
		c	利用者が思いや希望を表現するように働きかけたり、わかるかに合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	意志が無い方でも気持ちを読み取り、支援の努力を行っている。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	ゆったりしてもらおう努力をしている。職員のペースで行わないように注意している。	/	/	/	
		e	利用者の活き活きした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	◎	場が和むような声掛けや態度が取れるように指導をおこなっている。	/	/	/	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	意思疎通困難な方でも、わずかな表情や仕草でその方の気持ちを読み取るよう努めている。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	まずは認知症について理解し、一人一人を大切に思うことが出来るように日頃より職員教育に努めている。	/	◎	○	職員は入職時に接遇研修を受け、人権や尊厳について学んでいる。事業所としても、常に意識して取り組み、ユニット会で注意しているが、言葉がけに配慮が欠けていると感じられる面もあるため、利用者への敬意ある対応ができるように取組んで欲しい。居室の出入りについて、どの利用者にとってもプライベートな専有の場所であることを再認識し、丁寧な対応が徹底できるようにして欲しい。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	○	出来ていない職員もいる。指導はしているが、職員教育の難しさを感じる。	/	/	/	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	◎	他の方に悟られないようなトイレ誘導を行う。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専有の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	◎	特にしっかりとされている方の居室の出入り時には、了解を得てから入るように指導している。	/	/	/	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	理解している。再度勉強会を行いたい。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	人生の先輩として、色々なことを学ぶ機会が多い。	/	/	/	職員と一緒に他の利用者のお世話をしてくれる利用者もいる。時には利用者同士で言い合いになる場面もあるが、配席の変更や職員が間に入るなどして解決している。会話が少ない利用者がいれば、職員が隣で一緒に過ごしたり、雰囲気に馴染めるように配慮して支援している。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	間に入ることなく良い関係が維持できるように見守る。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらおう場面をつくる等)。	◎	トラブルや合う合わない事が多くある。席替えを行ったり、トラブル時は職員が間に入ったりして解決している。	/	/	/	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	◎	職員が間に入ったり、場所の移動や席替え等をおこなう。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	良く来られる方については把握できている。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	家族や知人からの情報を頼りに、情報収集に努め、理解を深めている。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	◎	いつも家族対応で行かれる方も居られる。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	居室で過ごされたり、職員は見守る程度の距離をおいている。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	充分にはできていない。天気の良い時など、歩行安定されている方はよく施設周辺散歩に行かれる。季節的に春、秋には多く外出されている。	△	×	△	職員の配置により、安全確保がとれる場合に事業所周辺を散歩することはあるが、利用者のその日の気分や希望で戸外に出かけることは少ない。重度の利用者も外出事に参加することもあるが、日常的な機会は少ない。利用者の体調や気候など配慮しながら、外出支援について改めて検討する機会を設け、日向ぼっこなどの小さな取組みからでも、すべての利用者が戸外で気持ち良く過ごせるような取組みを工夫して欲しい。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	○	ボランティアの方の協力のもと、外出され、外食行事に参加されている。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	車使用の外出行事には参加される。	/	/	/	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	家族協力のもと、よく行かれている方もおられる。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	◎	ユニット会において勉強会を行っている。	/	/	/	利用者のできることやできそうなことをアセスメントで把握している。新聞紙でごみ箱を折る作業では、職員が声をかけながら一緒に作業する様子が確認できた。利用者のできることやできそうなことは、自分でやってもらいながら、職員は見守ったり一緒に行うようにしている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	食事前の体操等で身体機能の低下予防を行っている。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	さりげなく洗濯物などを置いて、畳んでいただいたりしている。	○	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	意思決定の困難な方は職員が提供し、楽しみ事を一緒に持てるよう努力している。	/	/	/	事業所での生活が長くなり、できなくなることが増えても、利用者はその時々楽しみを見つけて生活の中で行うようにしている。おしぼりたたみやテーブル拭きを出番としている利用者もいる。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	認知症を十分理解し、職員の意識の向上を目指し、共に歩める環境作りを目指していきたい。	○	○	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	○	家族の協力のもと、地域の行事に参加されている方がおられる。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	◎	さりげなく言葉を掛けてあげる。衣服や髪形など褒めてあげることで、いい会話が始まる。				食べこぼしや衣服の汚れに気づいた職員は、利用者の気づかないうちに素早く拭き取ったり、化粧の習慣がある利用者には朝の身支度の時間に声かけを行っている。重度の利用者も起床後に更衣し、身だしなみを整えている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	さり気ない声掛けをしながら毎朝の整容を行っている。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	家族や知人の話や職員達の話で一番良い方法を提案していく。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	病院受診の時など、特にご本人から気を使われる。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	◎	気付いてあげ、さりげなく本人に恥をかかせないように対応している。	◎	◎	◎	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	◎	個人的になじみの美容院に行かれていた方もおられる。個々にあった髪形にしてみよう、美容師さんにアドバイスをしている。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	常に気が付いてあげる気持ちを持てるように心掛けている。			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	◎	愛情込めた食事作りをしている。				献立は法人の栄養士が立案し、旬の食材や材料を2日に一度配達してもらい、新鮮な食材で調理している。下膳やテーブル拭きなどのできることを利用者と一緒にやっている。利用者の好きな食べ物や苦手なものは事前にアセスメントして代用食で対応することができ、季節ごとのお祝い行事に合わせた料理も楽しんでいる。食器は入所時に持参してもらい、思い入れのある使いやすいものや持ちやすい形の食器を使うなどの工夫をしている。職員は、利用者のサポートを行いながら、同じ食卓で食事を摂っている。居室内で過ごす時間の長い重度の利用者も、食事時にはドアを開放し調理の香りやリビングの雰囲気を楽しんでもらうことで、食欲増進につなげている。利用者の嚥下状態を確認し、食べやすい形状や調理方法について職員間で話し合っている。食事介助の方法についても、利用者が安全に食べられるようにドレッシング容器の使用などの工夫を行っている。法人の栄養士に食事が進みになった利用者の栄養相談に乗ってもらい、アドバイスを受けている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	個々の自立度に合わせた対応を行っている。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	自発的に台所に来られ、コップ等を洗って下さる。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	充分に把握している。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔ながらの味のものを取り入れている。	◎	日頃から食べたいもの等をお聞きしている。			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いりどりや器の工夫等)	◎	その時の状態に合わせて対応している。経験の積んだ職員の知恵やアドバイスを後輩職員に伝えている。(終末期に近くなった方にはミキサー食や刻み食も必要)				
		g	茶碗や湯飲み、箸等使いやすいものを使用している。	◎	本人専用のお茶碗、お箸、瀬戸物の食器を使用している。			◎	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなくやっている。	◎	職員も昼食は必ず同じ物をテーブルで頂く。			○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	手作りの愛情こもった食事を作っている。	◎		◎	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	糖尿病の方は制限がある。				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	食時量が減ってきている場合は家族に連絡し、嗜好品を持って来ていただいたり、食べれるものを見つけていく努力をする。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	栄養士からのアドバイスで高カロリードリンクなど飲んで頂く事もある。			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	夕食終了後に調理用具等を殺菌消毒行う。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	理解できている。				食後に利用者全員の口腔ケアを行い、職員は口腔内の確認をしている。歯磨きや食事の様子を観察し、普段と変化があれば家族に連絡したり、歯科受診につなげた利用者の体重減少の原因が口腔内にあることを突き止めたりしたケースもある。	
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	把握している。歯の不具合を訴える方は多く、訪問歯科を利用。口腔ケアに関しては、しっかりされている方が職員の介助を嫌がり難しい面がみられる。			○		
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	研修を受けた職員はいるが十分なケアはできていない。義歯が合わなくなったり、残っている歯根が駄目になったりとトラブルが多い。訪問歯科を利用している。					
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	義歯は夜間お預かりし、洗浄。拒否される方は30分程お預かりし、お返りする。					
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	自分の歯がある方は口臭を生じやすく、液体歯磨き等使用されている。					○
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	○	家族対応で歯科に行かれている。訪問歯科を利用している。					
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	◎	反対に希望される方もおられる。(漏れが心配と)膀胱がんの方はトイレに行かなくても漏れている状態。反対にパットは必要不可欠である。個々に合った対応が必要。				重度化により、おむつを利用することが多くなっても、日中はなるべくトイレで自然排泄ができるように支援している。ユニット会では利用者の状態に合った排泄用品の使用について話し合い、適切な利用を心がけている。	
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	◎	十分に理解している。ユニット会でも勉強を行っている。					
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	生活記録表に記録している。					
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	夜間のみ紙おむつ対応の方がおられる。	◎		○		
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	◎	食事や飲み物を工夫し、試行錯誤している。					
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	◎	自立の方もさりげなく声掛けを行う。					
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一時的に選択するのはなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	本人の希望、職員の意見、家族の希望を踏まえて試行錯誤しながら、本人にとって一番適切なものを使用している。					
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	◎	入居してから日々検討している。個々の状態に一番適切である選択をおこなっている。					
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	食事から排便を促していく努力はしている。					
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	◎	入浴を嫌がる時は日にちを変えて入浴して頂く。また対応する職員を変えて(相性のいい)対応。声掛けの仕方にも工夫している。	◎		○	入浴は週2回利用でき、利用者の入りたい日や時間、湯温などの希望や好みになるべく浴えるように努めている。入りたくない日は無理をせず日を替え、同性介助の希望があれば職員を交代するなど、柔軟に対応している。	
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	◎	本人のペースに合わせて入浴される。反対にすぐ出ようとされている方もおられるので、ゆっくりとできるような会話をし、対応にも工夫している。					
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	◎	出来る事はして頂き、本人のレベルを下げない努力をしている。					
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせずに気持ち良く入浴できるよう工夫している。	◎	日にちを変更したり、担当者を変えたりして対応している。無理強いはいはない。					
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	体調や精神的に不安定な時は日を改めて入浴して頂く。決して無理強いはいはない。					

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	申し送りを行ったり、ケース記録に記入するなどして、情報を共有している。	/	/	/	現在、睡眠導入剤などの処方を受けている利用者はいない。夜間帯のトイレ回数が多い利用者もいるが、日中の過ごし方を検討したり、医師にも相談しながら総合的な支援に努めている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	◎	昼夜逆転される方が多い。日中の覚醒を促す努力をしている。(コーヒーや緑茶、紅茶などの飲み物を提供)	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	◎	他の方に悪い影響を及ぼす方がおられる場合、医師や看護師の助言をいただき、また家族の意見、同意を得たうえで病院受診して頂く。	/	/	◎	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	短時間で横になられるように声かけている。自室に戻られ休まれる方も居られる反面、人が居られるホールで休まれる方も居られる。(安心されるのか)	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	◎	携帯を持たれている方がおられる。何度が警察に電話したようで苦情があった。(掛けれる相手特定し設定した。)	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	◎	遠方から暮らしておられる家族より毎月絵手紙が届く方がおられる。携帯で家族との連絡をされている方もおられる。事務所まで、電話を掛けたいと言いに来られる方も居られ、家族と話をされる。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	◎	要望があれば事務所で電話されることもある。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	◎	家族に電話連絡を行い、近況を伝える。電話可能な方は家族と話していただく。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらおうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	毎月絵手紙を送ってくださる家族がおられる。家族からの電話は取り次いで話をされている。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	◎	手元に現金があると安心される。お金が手元にあっても、「通帳がない。」と心配される方もおられる。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	○	買い物等は家族が対応される。中には一緒に行かれる方もおられる。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	△	残念なことに周辺地域に気軽に行かれる店がない。家族と外出時に買い物されている方もおられる。。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	財布ごとゴミ箱に入れられたり、タンスの中にゴミと一緒に入れられたり、管理が難しく、基本的に事務所のほうでお預かりする形になっている。家族と相談し、紛失してもいい金額を本人に渡している。(時々確認している。)	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	◎	家族さんもわからず、本人任せと言われる事が多い。職員も交えて話し合い、どうしていくか、本人の気持ちを考慮し考えていく。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	だんだん管理できなくなり、お財布ごと事務所でお預かりしている方が多い。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	◎	家族との連携、協力のもと、職員と共に多様なニーズに答えていく。	/	◎	◎	管理者は利用者や家族のその時々々のニーズに、柔軟に対応したいと考えている。利用者の意向を家族に伝え、協力を得て墓参りや遠方の旅行へ行くこともある。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
(3)生活環境づくり										
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	◎	駐車場も広く、気兼ねなく駐車できる。家族が持って来られた草花を飾り、温かみのある雰囲気作りを目指したい。	◎	◎	○	家族がプランターに植えた花を持ってきてくれ玄関周りに飾ったり、ベンチを置いて利用者や地域の方が休憩できる場所となっている。	
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	◎	家庭的な空気が流れるように、殺風景な部屋ではなく、暖かみがある空間を目指している。	◎	○	◎	事業所の廊下は季節の行事の手作り作品を飾り、目で見て楽しむことができたり、加湿器を置くなど乾燥を防いだりするなど、利用者の過ごしやすい空間をつくっている。リビングは吹き抜けで明るく開放的である。掃除が行き届き、不快なおいを感じることもない。両ユニットとも段飾りの雛人形を飾り、利用者が季節の行事を思い出し、会話するきっかけづくりができる環境が整えられている。	
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	毎日掃除を行い、換気にも十分注意している。冬場は特に乾燥が酷い為、加湿にも気を付けている。					◎
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	季節の花を、入居者に活けていただいたり、テーブルの上に置いたり、ささやかな工夫がある。					○
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	仲のいい者同士(問題が起こらない。)が同じテーブルについている。色トラブルが起これば、職員間で話し合い、一番よい組み合わせを考えていく。近くにソファを置き、工夫している。					
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	△	中央トイレが構造上ホールから見えてしまう位置にある。使用中はドアを開められているか確認している。					
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	◎	入居の際は本人が今まで大切にされてきた家具や、雑貨等持ってきていただき配置等は本人や家族にお任せしている。	◎		◎	利用者が長年愛用してきた家具を居室でも使用している。絵画や祭りのポスターを飾ったり、本棚に本を並べたりするなど、その人らしく利用者の好みを活かした居室となっている。	
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	トイレの位置や洗面所の位置がわかりやすい。しかし理解できない方も居られる。場所がなかなか覚えられない。張り紙や声掛けを行っている。			○	トイレや居室の場所は目で見てわかるように表示されており、安全で自由に行き来ができるように工夫している。	
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	◎	トイレの電気が自動的に消える事を認識されず、戸惑っている方が多い。貼り紙で対応しているが、理解されない。水道の自動も戸惑っている。昔の蛇口がよい。					
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ぼうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	新聞、雑誌は常時ホールに置かれている。洗濯物も室内干しされており、いつの間にか丁寧に畳んでくださっている。					
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	山間部に位置し、今まで何度も施設外徘徊者があり、警察の方からも施錠するように注意されている。見守りセンサー等を設置し、開錠につとめている。事務所に職員がいるときは開錠している。	◎	◎	×	職員は鍵をかけることの弊害を学んではいるが、帰宅願望の強い利用者が多く外へ出てしまうことが続いたため、警察の嚴重注意を受けて以来、現在は来訪者がある時に開錠する対応を行っている。職員は鍵をかけずに自由に過ごしてもらいたい思いがあり、見守り方法や職員体制などの検討を期待したい。	
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	しっかりされている方は反対に必ず居室に鍵を掛けられる。夕方になると明けていた窓や出入口を施錠されたり、また明るいのにカーテンを閉められる。昔ながらの慣習が抜けない方が居られる。					
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	センサーチャイムを設置している。玄関は施錠していない。地域性(山間部)があり、危険性がある為、自由な外出には制限がある。					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4)健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	◎	事前面接記録等で一人ひとりを把握する。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	毎日の様子をケース記録に記入している。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	月に2度の往診があり、気になることや不安があれば医師や看護師に相談している。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	協力病院に相談の上、紹介状を書いて頂き、他の専門病院を受診される。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	月に2度の往診がある。(岩崎病院) 適切な医療を受ける為看護師が間に入り、専門医への受診を促して下さる。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	重篤な場合等、家族同伴で受診をお願いし、医師と直接話をして頂き 誤解が生じないよう、また適切な治療ができるように努める。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	入院の際には必要な情報提供を行っている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	病院から問い合わせがあった時は、ホームでの生活が可能であるか、また家族の意向を踏まえた上で情報交換を行い、早期退院に向けて受入れ体制を整えている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	◎	協力病院とは信頼関係ができています。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	協力病院の医師とかかりつけ医が来られ、入居者の健康状態を見られている。体調の変化や気になる点を往診時に伝え指示をいただいている。また薬の事等でアドバイスを頂く事も多くある。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	緊急時には、看護師に連絡できる体制であり、相談やアドバイスを受ける事ができる。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	日頃から些細な変化に気が付き、職員同士が周知できるように努めている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	充分には理解できていないが、お薬のしおりなど、個々にファイルしており、変更等あった場合は注意して職員が認知できるように努めている。不明なことがあれば薬局に直接連絡し、相談を行っている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	3度名前、服薬時の確認を行い、誤薬防止を徹底している。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	薬が変更になった場合は、職員全員に周知してもらい、気を付けてもらう。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	変化が見られた場合は必ず報告している。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	入居時に家族の意向を確認している。重篤な状態になられた時、再度家族の気持ちや本人の気持ちを読み取り、最適な方向性が選択されるように話し合いを重ねていく。	/	/	/	主治医の判断に伴い、家族を含めて話し合いを持つことで看取り支援の方針を共有し、介護計画を見直している。法人内で協力体制が敷かれており、ユニット会では看取りや重度化に関する話し合いを行っている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	本人と家族、医師との間で決定し、その後看護師や介護職員が方針を共有していく。家族の気持ち、主であるべき本人の気持ちを重要視して決定していきたい。	○		◎	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	◎	一人ひとりの気付きを大切に、職員が一つの気持ちとなって最期の時を穏やかに迎えられるように最善を尽くしていただく。多くの方を看取り、職員にはその気持ち、力量が十分に備わっている。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	出来ない事ははっきりと伝え、理解をしてもらっている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	体制は整えている。家族と医師との決定に従う。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	家族だけではなく、職員の中にも心理的不安が生じている事を理解してほしい。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	◎	ユニット会や内部研修で勉強会を行っている。流行前に情報を流し、施設全体で対応策をとっている。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	◎	季節前に勉強会を行い、再確認している。すぐに対応できるように、収納ボックスを用意している。法人全体での取り決めがある。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	◎	残念なことにインフルエンザが職員からの感染で職員や、入居者に蔓延してしまった。充分に対応策をとっていたが、防ぐことができなかった。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	◎	ネット等から情報を集めている。法人全体で、面会禁止や各施設間の行き来を禁止するなど、感染拡大しないよう対応策がある。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	特に病院受診後は付けていたマスクを捨て、新しいものに交換。全身にスプレーで消毒、手洗いを実行する。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	◎	連絡を密にとり、些細な事でもいい話を伝えるようにしている。面会時には、職員が多くコミュニケーションをとるように努力している。	/	/	/	法人の夏祭りの参加を家族総出で楽しんだり、面会時に利用者とは一緒に散歩をしたりする、事業所活動に積極的に参加・協力してくれる家族が多い。毎月の状況報告や電話連絡、機関誌の中で定期的に報告し、生活状況が伝わりやすいように工夫している。また、運営推進会議の報告書を送付し、事業所の活動報告や利用者の状況を伝えているが、運営に関わる報告は行えておらず、制度変更時の書類説明などに限られている。職員の異動を含め、運営上の事柄も丁寧に説明するなど、理解が得られるよう工夫して欲しい。管理者は家族と何でも話し合える良好な関係を構築したいと望んでおり、職員から来訪時の声かけや連絡を積極的に行うように努めている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	◎	宿泊される方は居られないが、一緒にお茶を飲まれたり、周辺を散歩される方が居られる。	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	面会時に一緒に散歩に出かけられたり、夏祭りに一家総出で参加して下さる。	/	○	○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	変化や気づきがあった場合、多く報告するようつとめている。	/	◎	○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	家族が嫌がるような事や、辛がる事柄については、あまり報告しない。なるべくいい報告、楽しい報告ができるようにしている。	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	◎	家族から色々な話題を引き出し、いい関係が築けるように努力する。	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得ようとしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	運営推進会議において報告している。地域や市の関係者も来られるので、色々な情報提供していただいている。	x	/	x	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	○	法人主催の盆踊り大会があり、家族や、職員の交流の場となっている。	/	/	/	
		i	利用者一人ひとり起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	◎	面会時に日頃の様子を伝え、リスクの高い方には詳細に危険度について話を伝えている。ホーム側が行っている対応も説明し、理解していただいている。	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	◎	小さな事でも家族に伝え、気さくに話し合える関係を作っていきたい。	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	しっかりと説明を行い、必要事項記入、押印等をお願いしている。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	今迄、3件の退居事例があったが、すでに退居先が決定済であった。	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	必要書類を説明し、署名、押印を頂き、本人の個人ファイルに保管している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	運営推進会議を開催している。地域の方とのパイプ役になっている。	/	◎	/	自治会の門松作りなどの行事や、法人の菜園で園児と芋掘りをする交流がある。地域行事への参加を期待する声も聞かれているが、高齢化や職員体制などの理由から、利用者が地域へ出向く交流の機会はない。今後、利用者が地域住民と交流する機会を持てるように支援して欲しい。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	運営推進会議に来られる地域の方がいろいろな情報を提供してくださる。あじさい祭り、広瀬公園の花見など近隣にすばらしいものがあるので他にはない地域のすばらしい財産を満悦している。	/	×	△	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	△	地域性(山間部、高齢者が多い、人口が少ない)もあり、難しい点がある。反対に職員が地域の方を心配している。	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	同地区の方が、入居されている方の家を心配されて来られる(家の草ぬきもしてくださる。)	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	地域性もあり、難しい所がある。散歩されている方が多く、気軽に声をかけている。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	毎年年末に門松を立ててくださる。節分時には鬼頭を持ってきてくださり、ホームの事を機に欠けて下さる。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	広瀬公園という立派な公園があり、住友の資料館がある。暖かい時は歩行のしっかりされる方と散歩に出掛ける。住友に係る方が多いので、天気をみてマイントピアにドライブに行かれ楽しまれている。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	入所当時から職員対応で馴染みの美容院にお連れしている方が居られた。家族対応で、なじみの美容院に行かれていたかとも居られる。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	◎	高齢の方が多く、最後の雑談が長くなり、楽しみにされている。隣接の施設職員の参加もあり、会合を楽しまれている。	/	×	△	地域住民の参加は多いが、家族の参加は家族代表者のみとなっている。開催の呼びかけは全家族に行い、参加できなかった家族にも会議の内容が伝わるように工夫して欲しい。会議では利用者の暮らしぶりや評価結果を報告しているが、取り組み状況については報告されていないため、今後は目標達成計画を作成し、改善に向け理解が得られるよう取り組んで欲しい。地域住民や市担当者など、参加者からは地域情報などの意見を多く得ており、外出先などを運営に反映し報告している。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	実施後と公開後に、推進会議において評価の概要は報告している。	/	/	△	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	◎	市役所の方も出席され、色々な情報を提供してくださる。	/	/	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	◎	奇数月の第三金曜日と決めている。	/	/	○	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	◎	菜園者が閲覧できるようにしている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	◎	毎年、4月に理念について勉強している。ユニットごとに理念がある。				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	◎	事務所内、また利用者様にもわかるように玄関ホールに掲示している。	○	△		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者:基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	市内、近隣地域での研修があれば、参加をうながしている。遠方(松山等)は行きづらいという職員の声がある。				代表者は日頃から職員とコミュニケーションを図り、気軽に相談に乗る関係を構築している。職員の親睦会の助成制度など、ストレスを軽減しながら働けるよう環境を整えている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	資格習得に向けて、法人の援助や勤務も猶予されている。				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	◎	必要な時は遠慮なく、有給休暇が取得できるようにしている。				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	△	以前は何らかの交流の場が見られたが、現在は無くなった。他の施設を見学したり情報交換できる場があればいいと思う。				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	外部福利厚生サービスを利用され、催し物に参加されたり、旅行に行かれたりされている。職員と常日頃より、話をさくようにしている。	○	◎	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	◎	ユニット会において勉強会を行っている。実際に起こった事例や職員の精神状態を分析。ホームで絶対に起こらないよう職員一人ひとりに周知して頂く。				ユニット会で職員は虐待や不適切ケアについて学んでいる。利用者への言葉遣いなど対応に気になる点があれば、職員自身に気づきが持てるように注意している。万が一、虐待や不適切な行為が発見された場合には職員は報告書を提出し、再発防止について職員間で話し合う手順となっている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	◎	月に1度ユニット会が開催、処遇について一人ひとり分析し、どう対応するか話合う。				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないよう注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	◎	職員間で問題の分析を行い、再発防止に取り組む。また関係者には口頭で早期に報告し、後日必要報告書等の提出を行う。			○	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	◎	言葉遣い、態度に変化がないか観察する。日頃から職員一人ひとりに声掛けするように心がけている。				
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	◎	ユニット会において毎年繰り返し勉強会を行っている。				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	◎	把握しているが、毎年繰り返し勉強会を行っている。				
		c	家族等から拘束や施設長の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	◎	十分な説明を行い、理解して頂く。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	×	支援が必要な方がいない為、十分に理解されていない。 今後の学習課題とする。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	×	行えるようにしてはいるが事例がない。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	×	現在必要性がない為、連携体制は築けていない。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	◎	緊急時のマニュアルは作成し、吸引用具は準備されている。勉強会もおこなっている。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	不定期であるが行っている。職員全員が対応できるかは、不安がある。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎	ちょっとした事でも提出することになっている。重大事故は市に報告書を提出する。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	事故が起こった場合にカンファレンスをおこなって、再発防止に向けた話し合いを行っている。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	◎	苦情が出たときは上層部まで報告書を提出している。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	◎	苦情報告が出れば、速やかに報告書を法人に提出することになっている。市町村迄提出した事例はまだない。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	◎	最終的な報告を伝えている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	一番は家族からの報告だと思うが、今まで無い。			○	家族からの要望は面会時など日常的に聞き取りを行い、利用者のケアに反映し信頼される関係づくりに努めている。利用者の意見や要望は日々の関わりの中で聞き取っている。聞き取った要望はユニット会で話し合い、全員で共有している。職員は管理者に直接相談することも多く、何でも話し合える雰囲気になっている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	玄関に苦情BOXを設置している。日ごろから家族とより良い関係を築き、気さくに何でも話し合えるよう努力している。		○	○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	入所説明・契約時には説明をおこなっている。何かあれば、直接ホームに相談がきている。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	◎	職員あつての職場であり、一人ひとりの意見や思いを日頃から聞くように努力している。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	ユニット会において、入居者の担当職員から意見や提案を聞き、より良い支援に繋げるため話し合いを行っている。入居者を大切に思う気持ちを一番に共有して貰いたい。			○	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	項目の確認はするが、自己評価までには至っていない。				評価結果の報告は行っているが、目標達成計画を作成していないため、今後は運営推進会議などの機会を活用し、課題を共有して欲しい。また、機会を得ながら活用しながら、取組状況の報告や参加者のアドバイス、意見をもらうなど、モニターとしての機能を活かし地域に開かれた事業所となることを期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	色々な勉強不足に気づかされる。多くの項目において1年間の課題ができた。				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	全てには取り組めていない。項目が多く、抜粋して取り組んでいきたい。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	△	報告はしているが、モニターは利用していない。	×	×	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	ユニット会や運営推進会議において報告している。職員には事前に評価項目の内容を確認してもらっている。現状維持ではなく、ケアの向上に努力していく。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	◎	マニュアルは整備されている。必要に応じて見直しもこなしている。				事業所内の防災訓練は実施できているが、家族や地域住民との連携がなく、不安な様子を感じられる。運営推進会議などの機会を活用し、話し合いや合同訓練を実施していくことで協力・支援体制を確保し、利用者や家族だけでなく、地域住民や職員にとっても安心できる場所として認識してもらえるように取り組んで欲しい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	夜間想定した火災訓練を行っている。土砂災害も近隣施設の協力を得ておこなっている。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	行っている。隣接施設の管理栄養士が非常食の管理業務をしてくださっている。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	消防署からの指導や訓練の機会はある。	×	×	×	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	法人として地域の防災会に参加しており、不定期に開催される防災会議・防災訓練には参加している。				
		a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	○	法人として、地域の認知症高齢者支援団体(すみのSOSネットワーク協議会)の事務局を担当し、定例会や訓練に参加している。				
51	地域のケア拠点としての機能	b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	申込書等持ってこられた時に相談等行っている。		×	△	家族や入居希望者への相談支援の機会はあるが、認知症ケアを実践している事業所としての認知度は低いと感じられる。今後は自治会などの協力も得ながら、地域の高齢者や認知症の人、その家族へ相談支援が行える場として周知し、事業所として積極的に相談を行える体制を整備して欲しい。地域交流は法人が窓口になっていることから、事業所が独自に関わりを持つことが少ないため、今後は積極的に地域活動を協働しながら行って欲しい。
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	十分に活用出来ていない。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	一度受け入れた事がある。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	法人で参加。地域と連携できるように協力体制の構築に努めている。			△	